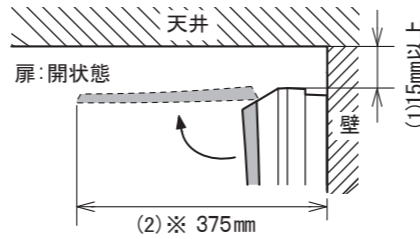


施工の際は、本分電盤と同梱の『住宅用分電盤 施工説明書』も必ずお読みください。

1 住宅用分電盤の取り付け

[1] 取付位置について

- (1)カバーの取り外し・取り付けのスペースを確保するため、天井と本体上部の間隔が15mm以上になるように取り付けしてください。
- (2)照明器具(ダウンライト)の近くに取り付ける場合は、使用されるダウンライトの近接限度距離以上離してください。過熱による変形・火災の原因となるおそれがあります。
※扉付の場合は、扉を開けた状態でも確認してください。



[2] 取り付け、壁の開口について

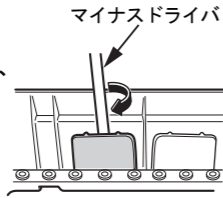
■ 露出・半埋込形

露出取り付けする場合

- (1)ボックス底面の配線孔に合わせて壁に穴を開けます。
- (2)ボックスの四隅に取り付いているねじでボックスを固定します。

半埋込取り付けする場合

- (1)下表の開口寸法で壁に穴を開けます。
- (2)ボックス左右側面の薄肉部を利用して、ねじでボックスを固定します。
- (3)ボックス上側面の配線孔用ロックアウト部は、マイナスドライバを差し込み、ひねると開口します。



注意 下表の開口寸法は、ボックス底面の寸法と異なります。ボックス底面に合わせて穴を開けないでください。開口寸法が小さい場合、ボックスを無理に取り付けると変形するおそれがあります。

開口寸法(半埋込用)

本体寸法(タテ×ヨコ)	開口寸法(タテ×ヨコ)
320×347	304～306×331～333
320×381	304～306×365～367
320×415	304～306×399～401
320×449	304～306×432～434
320×483	304～306×466～468
320×517	304～306×500～502
320×551	304～306×534～536
320×619	304～306×602～604
320×687	304～306×670～672
320×789	304～306×772～774

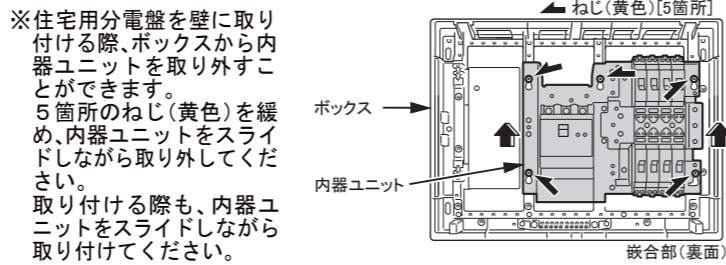
■ 埋込形

- (1)下表の開口寸法で壁に穴を開けます。
- (2)ボックス左右側面の丸ノックアウト部を利用して、ねじでボックスを壁の木枠に固定します。

注意 ボックスは壁面と同一か、壁面より深く埋め込んでください。ボックスが壁面から突出していると、カバーと壁面との間に隙間ができます。

開口寸法

本体寸法(タテ×ヨコ)	開口寸法(タテ×ヨコ)
320×347	304×321
320×381	304×355
320×415	304×389
320×449	304×423
320×483	304×457
320×517	304×491
320×551	304×525
320×619	304×593

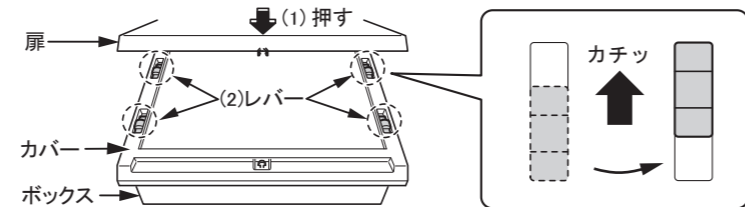


注意 内器ユニットをボックスに取り付ける際は、内器ユニット裏面の嵌合部(上図参照)がボックスに乗り上げないように注意して取り付けてください。

■ 埋込形

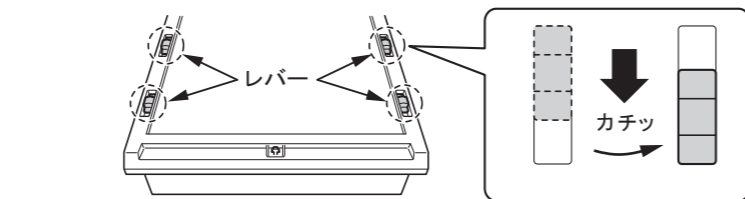
取り外し

- (1)扉下部中央にある[PUSH]部を押して扉を開けます。
- (2)左右のレバーを上側へカチッと音がするまでスライドさせて、カバーを手前に引き上げます。



取り付け

カバーをセットし、左右のレバーを下側へカチッと音がするまでスライドさせます。

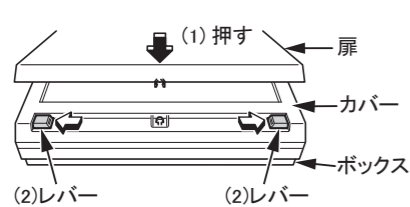


2 カバーの取り外し・取り付け

■ 露出・半埋込形

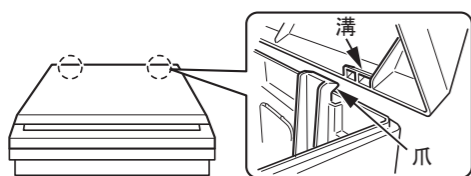
取り外し

- (1)扉下部中央にある[PUSH]部を押して扉を開けます。
- (2)カバー下側両端のレバーを外側へスライドさせてカバーを手前に引き上げます。



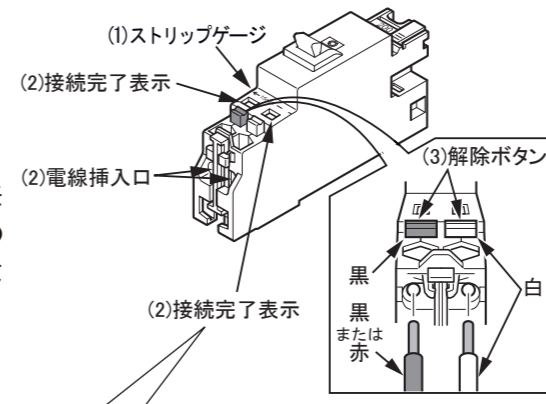
取り付け

ボックス上部の爪にカバー上部の溝を掛けて、カバー下部をそのままボックス側に押し込みます。



3 分岐ブレーカ(速結端子)への電線接続

- (1)電線の被覆をブレーカ本体のストリップゲージに合わせ、15mm(13～18mm)剥離します。
- (2)電線挿入口に電線を差し込み、オレンジ色の接続完了表示が出るまで差し込みます。

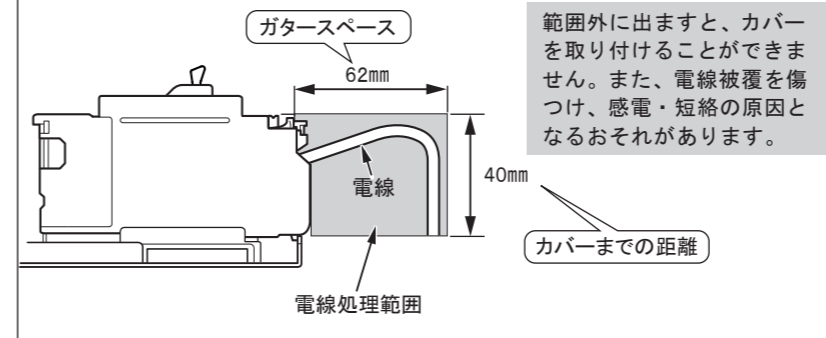


注意 電線の押し込み荷重が高すぎる(100N以上)とブレーカが破損する場合があります。電線を差し込んでも、オレンジ色の接続完了表示が出ない場合は接続が不十分です。電線の剥離長さを確認して接続直してください。施工時の電線処理によりオレンジ色の表示が消えた場合は、再度電線を差し込み直してください。

- (3)電線を抜く場合は、解除ボタンを押しながら引き抜いてください。

注意 解除ボタンの押し込み荷重が高すぎる(70N以上)とブレーカが破損する場合があります。

注意 接続電線は電線処理範囲内で配線してください。



4 速結式アース中継端子への電線接続

[1] 速結端子への接続

電線をストリップゲージに合わせて被覆を12mm剥離し、連結端子の奥まで確実に差し込みます。

[2] 電線の抜き方

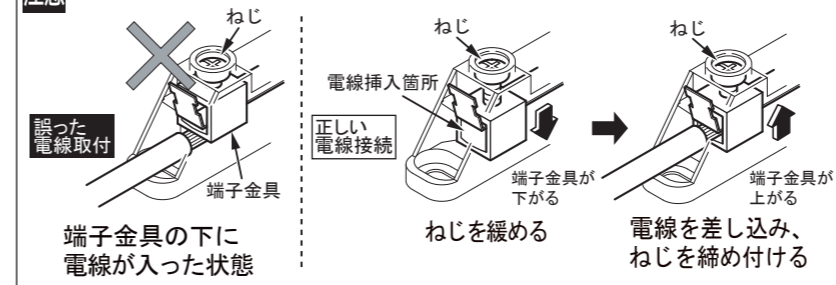
解除ボタン(白色)をドライバなどで押しながら、電線を抜きます。

[3] ねじ端子金具への接続

電線の被覆を15mm剥離し、ねじ端子金具のねじを完全に緩めてから、ねじ端子金具に電線を奥まで差し込み、ねじを締め付けます。

ねじ締めトルク 1.9～2.0N・m

注意 ねじ端子金具のねじを緩めない状態で電線を差し込まないでください。



注意

- 電線の差し込み部の変形・腐食は、接続不良の原因となります。電線の変形・腐食部分を取り除いた後、電線の被覆を剥離し、接続直してください。
- 1つの速結端子に2本以上の電線を差し込まないでください。
- 棒圧着端子を使用する場合は、必ず絶縁キャップを取り付けてください。短絡のおそれがあります。
- 心線をはんだ付けしないでください。
- 適合圧着工具を使用して電線を圧着してください。

接続可能電線:φ1.6・φ2.0・φ2.6 Cu(銅)単線専用

注) 30Aはφ2.6の単線、より線の場合は指定の棒圧着端子を接続してください。(より線の場合は棒圧着端子使用)

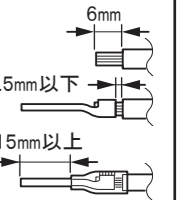
より線サイズ	適合棒圧着端子使用
1.25mm 2.0mm	TC 2-20 (棒圧着端子) VC 1-2 (絶縁キャップ) 【ニチフ製】
3.5mm 5.5mm	TC 5.5-21ST (棒圧着端子) VC 5.5-21 (絶縁キャップ) 【ニチフ製】 (30Aに標準付属)

[棒圧着端子接続方法]

- (1)電線の被覆を6mm剥離します。
- (2)棒圧着端子に電線を通し、圧着します。
- (3)棒圧着端子に絶縁キャップを取り付けます。

■適合圧着工具

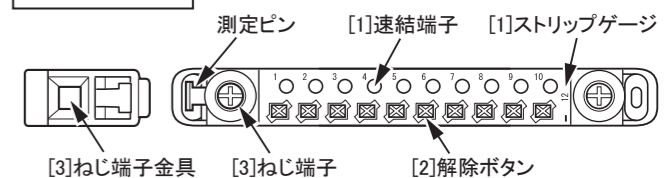
ニチフ製NH1,NH9,NA3(NA3 7)または同等品



注意

- 電線の差し込み部の変形・腐食は、接続不良の原因となります。電線の変形・腐食部分を取り除いた後、電線の被覆を剥離し、接続直してください。
- 1つの速結端子に2本以上の電線を差し込まないでください。

各部の名称



●接続可能電線(速結式アース中継端子)

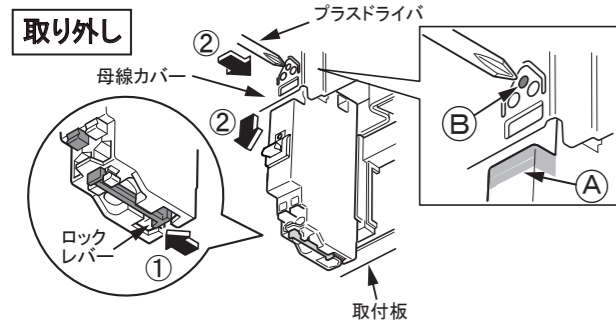
速結端子:φ1.6・φ2.0 Cu(銅)単線専用

ねじ端子金具:φ1.6・φ2.0 Cu(銅)単線

3.5～14mmより線

5 その他

[1] 分岐ブレーカの取り外し・取り付け



- 取り外し**
- ① ロックレバーを上げます。
 - ② 指をA部(ア)にかけ、ブレーカを引きながら、プラスドライバでB部を押し、ブレーカを取り外す。
※プラスドライバは、2番または3番を使用してください。
※ブレーカの脱落に注意してください。

[2] 分岐ブレーカの電圧切り替え [2P2E型(100/200V)のみ]

■200V回路への切り替え方法

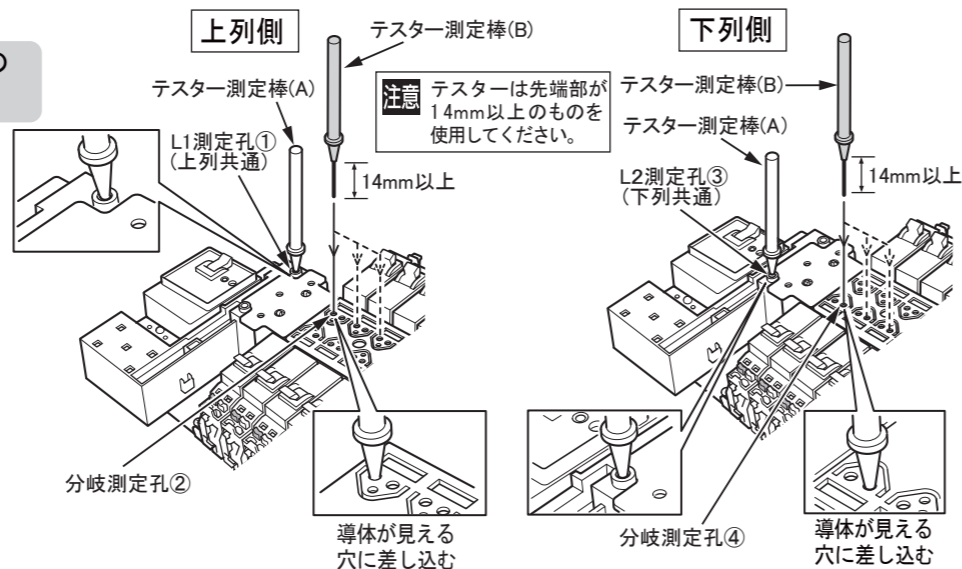
- (1) 分岐ブレーカ(2P2E)を取り外します。
(上記、取り外し方法を参照してください)
- (2) 電圧切替端子部①を矢印方向にスライドします。
必ず端(カチッと音がする)までスライドさせてください。
- (3) 電圧確認表示②が200V(赤色)になっていることを確認します。
電圧確認表示②が100Vのままの場合は異常です。
本ブレーカを使用しないでください。
- (4) カバー裏面に貼付している200Vシール③を貼付します。
- (5) 分岐ブレーカ(2P2E)を取り付けます。
(上記、取り付け方法を参照してください)
- (6) 電線接続前にブレーカの負荷側で電圧を確認してください。

[3] 電圧測定

■分岐ブレーカ1次側の電圧測定方法

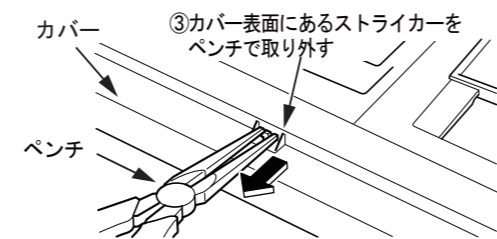
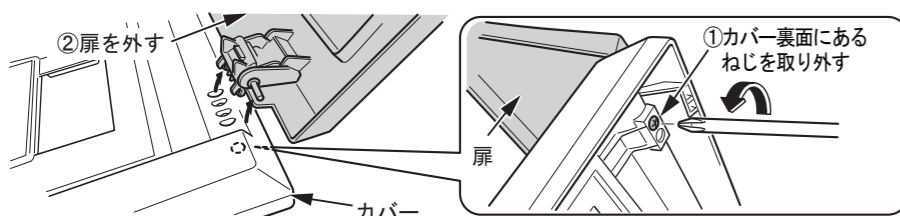
負荷機器に電圧を供給する前に各分岐回路の電圧を測定することができます。

- 分岐ブレーカ上列側の電圧を測定する場合
- (1) テスターの測定棒(A)をL1測定孔①に差し込みます。
 - (2) テスターの測定棒(B)を分岐測定孔②の導体が見える穴に差し込み、各分岐回路の電圧値を読み取ります。
- 分岐ブレーカ下列側の電圧を測定する場合
- (1) テスターの測定棒(A)をL2測定孔③に差し込みます。
 - (2) テスターの測定棒(B)を分岐測定孔④の導体が見える穴に差し込み、各分岐回路の電圧値を読み取ります。



[4] 扉付き⇒扉なしへの変更

扉付き(MAタイプ)の場合は、扉を取り外して扉なしの分電盤にすることができます。



注意 取り外したストライカーは、再度使用しないでください。外れやすくなる場合があります。

注意 必ず主幹ブレーカは切ってください。感電のおそれがあります。母線カバーは取り外すことができません。無理に取り外そうとすると、感電のおそれがあります。

取り付け

- ① ガイドリブ
- ② 母線カバー
- ③ ロックレバー

分岐ブレーカの増設、交換について

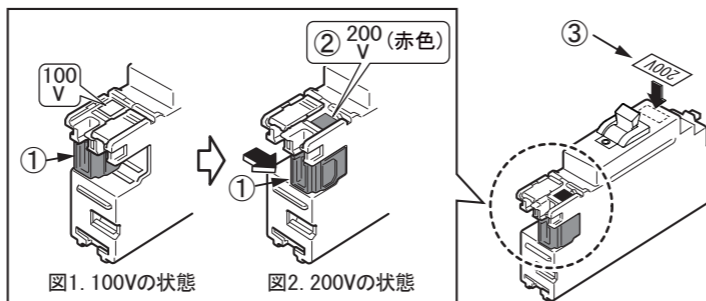
※分岐ブレーカの増設、交換の際は、パールテクトブレーカをご使用ください。電源側プラグイン端子の形状が異なるため、パールミニブレーカは取り付けできません。

パールテクト
ブレーカ

電源側
プラグイン端子

パールミニ
ブレーカ

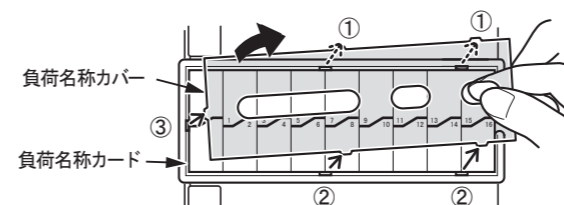
注意 2P2E型(100/200V)のブレーカを使用してください。必ず主幹ブレーカを切ってください。感電のおそれがあります。



注意 分岐ブレーカを必ず切ってください。分岐ブレーカは正しく取り付けてください。正しく取り付けしていない場合、短絡のおそれがあります。

[5] 負荷名称カードの取り外し・取り付け

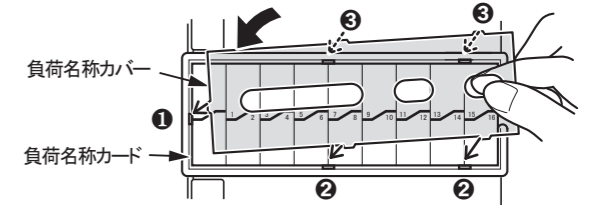
取り外し 負荷名称カバーを取り外し、負荷名称カードをパネルから取り外します。



①、②、③の順に負荷名称カバー突部をパネル側の溝から抜きます。

負荷名称カバーの表面(片側)には保護シートがついています。必要に応じ、施工または清掃後に保護シートをはがして使用してください。

取り付け 負荷名称カードをパネルの表面に置き、負荷名称カバーを取り付けます。



①、②、③の順に負荷名称カバー突部からパネル側の溝にいれます。

住宅用分電盤 パールテクトの取り扱いについて

■安全上のご注意

注意

- 分岐ブレーカのパールテクトブレーカは、当社製住宅用分電盤 パールテクト専用品です。当社製の他の分電盤、他社製分電盤には取り付けできません。無理に取り付けた場合、火災のおそれがあります。
- 分岐ブレーカ上列側の電源側プラグイン端子はバーへ確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、火災のおそれがあります。
- 分岐ブレーカの負荷側速結端子に電線を接続する場合、オレンジ色の接続完了表示が出るまで電線を奥まで差し込んでください。差し込みが不十分な場合、火災のおそれがあります。

■施工上のご注意

注意

- 電気工事は、有資格者(電気工事士)が行ってください。
- ゴミ、コンクリート粉、鉄粉等の異物および雨水等が分電盤、遮断器内部に入らないように施工してください。感電、火災、不動作のおそれがあります。
- 配線作業は上位遮断器を切「O」にし、電気がきていないことを確認してから行ってください。感電のおそれがあります。
- 端子のL相とN相を正しく接続してください。(AC100V回路専用器種の場合)
- 端子方式が溶ダレス端子の器種については、より線のハンダ上げやバインドは行わずに接続してください。
- 連続負荷を有する分岐回路の場合、ブレーカに通電する負荷電流は定格電流の80%以下としてください。(内線規程)

■使用上のご注意

注意

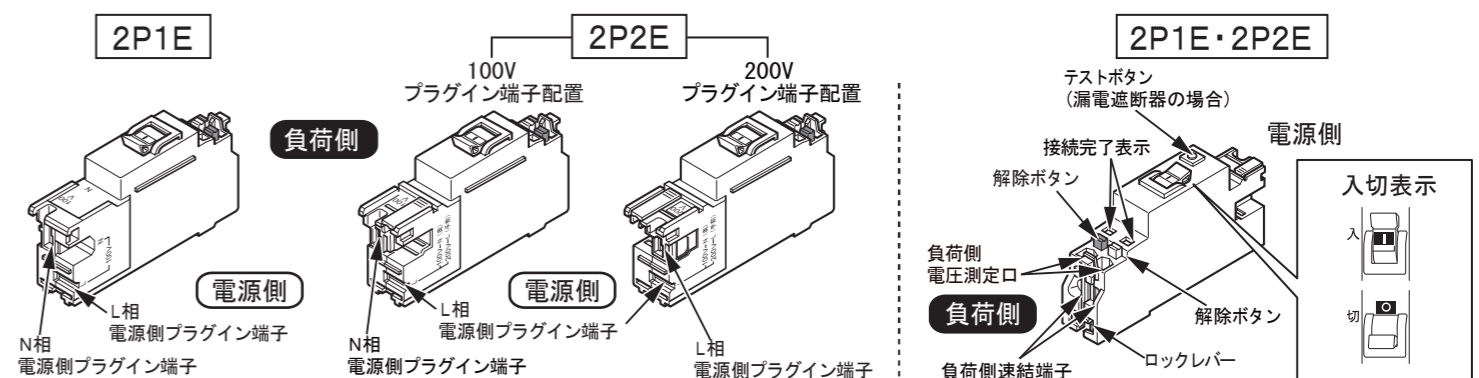
- 電気機器のアース端子は必ず接地してください。
- 自動的に遮断した場合は、原因を取り除いてからハンドルを入「I」にしてください。感電、火災のおそれがあります。
- 漏電遮断器のテストボタンを押して動作確認を行ってください。漏電遮断器が切「O」にならない場合は故障です。電気工事店へ連絡してください。

■保守・点検上のご注意

注意

- 保守・点検は、専門知識を有する人が行ってください。
- 保守・点検は、上位遮断器を切「O」にし、電気がきていないことを確認してから行ってください。感電、短絡のおそれがあります。

■各部の名称(分岐ブレーカ パールテクトブレーカ)



テンパール工業株式会社

■本店 〒732-0802 広島市南区大州3-1-42
代表 TEL(082)282-1341 FAX(082)282-8680

技術問い合わせ窓口 TEL(082)287-9110 FAX(082)283-4534

受付時間 9:00~17:30 [月曜日~金曜日(祝日、弊社休業日を除く)]